



**認知症地域支援推進員に必要とされる
ネットワークづくりの重要性と展開**
～認知症地域支援推進員養成研修 名古屋会場～



鹿児島県 霧島市
社会福祉法人 霧島市社会福祉協議会
霧島市地域包括支援センター
霧島市認知症地域支援推進員 福田 竜光

霧島市をご紹介します



まち
工場 農業も盛ん
穂の峰
し、鹿児島空港があり、

本初の新婚旅行の地)

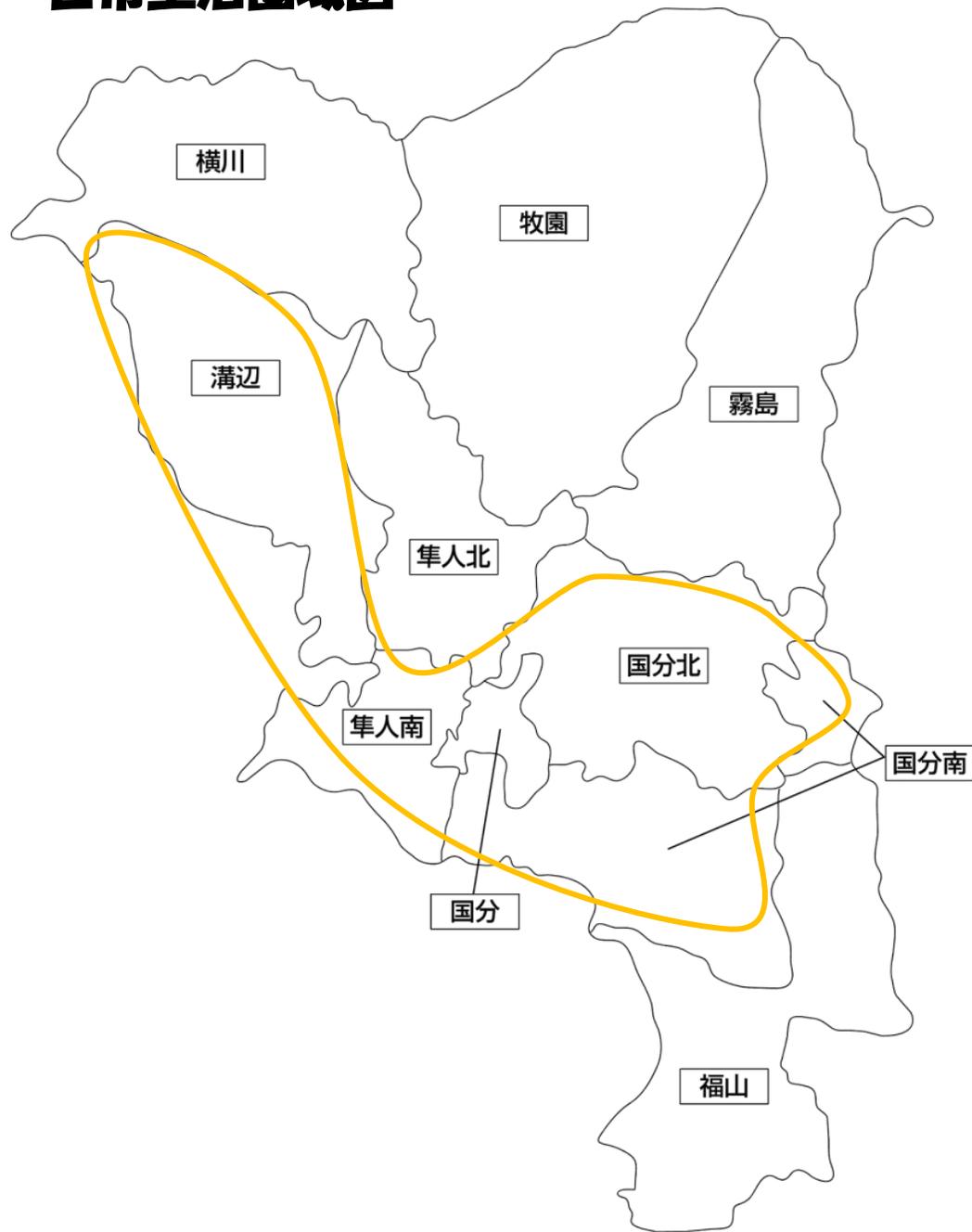
が有名



鹿児島県



日常生活圏域図



平成17年に、1市6町が合併。

面積: 603.18km² 人口密度: 210人/km²

総人口: 126,638人

高齢者数: 32,069人

高齢化率: 25.32%

認知症高齢者の自立度Ⅱ以上 3,799名

旧市町単位では、高齢化率の差があり

国分地区 **17.9%** ~ 牧園地区 **39.5%**

地域包括支援センター: 本所18名

10支所各1名

認知症地域支援推進員数: 3名

(H28.8 現在)

2. 霧島市の認知症施策一覧

事業名	目的	事業内容
認知症施策総合推進事業	霧島市地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置し、地域における認知症ケア体制及び医療との連携体制を強化し、認知症の早期発見等の医療と、介護の切れ目のない総合的な支援体制の確立を図る。	(1)地域におけるネットワーク体制の構築を行う。 (2)認知症疾患医療センターにおいて認知症の確定診断を受けた者に対する支援を行う。 (3)地域において、認知症に対する各種の保健医療及び介護サービス等の内容、利用方法に関する情報の提供を行う。 (4)若年性認知症に関する支援を行う。 障害者就労支援事業所の連絡会へ参加
介護予防普及啓発事業「脳いきいき教室」	市内の65歳以上の高齢者を対象とし、介護予防に関する知識の普及・啓発を行うことで生活機能の低下、特に脳の活性化による認知症を予防する。	1. 介護予防検診(生活機能評価)を受診し、基本チェックリスト認知症問診項目にチェックのある者を対象とし、1会場15名程度の人数で市内の旧市町ごとに募集を行う。 2. 脳活性化プログラムや軽い運動を1回あたり120分の実施時間で各会場計 9回程度 を行う。 3. 1回目と最終回目に評価を行い、本事業に参加しての前後を比較する。
「わたしのアルバム」(霧島市認知症連携バス)	自分の人生を振り返り、印象に残っている事や今、書いておきたい事を記入しアルバムとして保存し、認知症などで意思の伝達や自己決定が困難となった時でも自分らしい生活を継続できる一助とする。	1. 包括支援センターが中心となり、広報・啓発を行う。 2. ご本人がアルバムを作成する。 3. 分かりやすい場所へ保存する。 ※紛失が心配な方は包括にてデータをスキャンし保存することもできます。 4. 自分の意思を表明することが困難になった時に、介護サービス提供事業所において情報共有を行いご本人様に寄り添ったケアを行う。 霧島市地域包括支援センターHP内に簡易版あり。
認知症高齢者早期発見促進事業	高齢者が、もの忘れ外来【認知症に関する国や県の研修を受けた医師】を受診し、認知症の早期発見、早期治療を促進する。 ※物忘れ外来委託医療機関(26医療機関)	1. 65歳以上で、ひどい物忘れなどの症状のある方ご本人、もしくは家族が地域包括支援センターへ相談してもらう。 2. 包括支援センターは、基本チェックリストの項目や認知状況を確認し、ご本人に受診を勧め「もの忘れ外来受診券」を発行する。 相談のケースに対し発行。 3. ご本人は「もの忘れ外来受診券」を持って受診する。 4. 包括支援センターは受診結果に基づきご本人の支援を行う。

霧島市の認知症施策一覧

事業名	目的	事業内容
家族介護者交流会「このゆびとまれ」	介護者どうしが気軽に語り合う場を設けることにより介護のヒントを得てもらい、心の負担を軽くしてもらう。	公民会文書を通して広く市民に広報し参加者を募る。 当日はグループ形式とし、コーディネーターが会話を誘導し介護者が自分の気持ちや状況を自由に話せる雰囲気づくりを行う。 地域包括支援センター主催で、市・認知症と家族の会鹿児島県支部・松下病院が共催して行う。
霧島市認知症高齢者見守り事業	地域における認知症高齢者の見守り体制を構築し、認知症高齢者及びその家族等の状況やニーズを日常的に把握するため、その核となる認知症高齢者見守りリーダーを設置し、認知症高齢者等が、住み慣れた地域で、安心して自立した生活を継続できるよう支援する。	(見守りリーダーの活動内容) ・認知症に関する広報・啓発活動。 ・認知症高齢者見守りネットワークの構築。 ・その他、認知症高齢者等の支援。 ※事業は、霧島市社会福祉協議会に委託して実施する。
認知症高齢者見守りネットワーク事業	市民への認知症理解を広め、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの促進(モデル地区)単人南、横川	地域の中で認知症の人やその家族が安心して生活するための幅広い啓発と理解促進を行う。(認知症サポーター養成) 見守り体制づくりの実践として「徘徊模擬訓練」を行い認知症への理解と支え合いのネットワーク形成を進める。
認知症サポーター養成	認知症について偏見をもたず正しく理解し、あたたかく見守る応援者(サポーター)を養成する。	住民や企業、学生等を対象とし、地域包括支援センターから講師を派遣して、1時間半程度の出前講座を実施する。 講座では、わかりやすいテキストを用いて、認知症についての正しい知識や、対応方法などを話し、修了者には、「わたしは、認知症の人を支援します」という意志をあらわす「オレンジリング」を渡す。 H28年度：742名
認知症カフェ事業	認知症の方やその家族の居場所づくりや相談の場の提供を目的とし、家族同士の交流の場として活用することにより、認知症やその危険因子の予防の大切さや理解を深めることを目的とする。	・認知症カフェは主に初期の認知症の方や家族、地域住民らが集い、悩みを打ち明けたり、交流する場としての活用が図られるよう必要な支援等を行う。 ・認知症に関する啓発活動や認知症予防(認知的予備力の強化・環境調整)をテーマに教室を開催する事によって、認知症や生活習慣病の予防の大切さを理解し、地域でその人らしい生活を送れるように支援していく。 ・事業は、認知症疾患医療センター松下病院に委託して実施する。 H28年度：自主事業で、2医療機関・1社会福祉法人が追加

3. 今回報告させていただく活動・取組の位置づけ

認知症施策総合推進事業

地域における認知症ケア体制および医療との連携体制を強化し、認知症の早期発見等の医療と介護の切れ目のない総合的な支援体制の確立を図る。

地域におけるネットワークの構築を図る

4. 霧島市認知症地域支援推進員に求められること

認知症の人に対し、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、地域包括支援センター、認知症疾患医療センター、を含む医療機関や、介護サービス事業者や認知症サポーター等地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図る。

地域の実情に応じて、地域における認知症の人とその家族を支援する相談支援や支援体制を構築する。

ボランティア

認知症の人
と家族

民生委員
在宅福祉ア
ドバイザー

霧島市

地域密着型
サービス事
業者連合会

認知症介護
指導者等

自治公民館長
公民館長

作業療法士
会

5. 認知症地域支援推進員の活動

霧島市
ライフサ
ポートワ
ーカー

～多くの方・機関の理解と協力のもとで～

介護保険サ
ービス事業所

認知症疾患医
療センター

介護支援専
門員等

障害者就労継
続支援事業所

警察

小中学校等

医師会
歯科医師会
薬剤師会

認知症サポート医
かかりつけ医

まず、市町村との連携は必須。

**行政担当者と何度も話し合い、青写真を描く。
しかし、行政担当者と推進員だけでは、何も始まらない。**

誰の・・・どの機関の・・・協力が必要か。

認知症サポーター養成から広がる、支援ネットワークの動向

本日紹介するネットワークの例

- ・活動を通して、繋がるネットワーク。
- ・ネットワークのシステム化を目指した活動。
- ・システムを活用した、ネットワークの構築

出会って大切ですよね

認知症介護指導者との出会い

霧島市ライフサポートワーカーとの協働

総合相談機能や地域の関係づくり、集まり場づくり、虐待への緊急対応など生活を継続するうえでの「安心」を支援するための拠点となり、その地域に密着したセーフティネットの構築をする役割

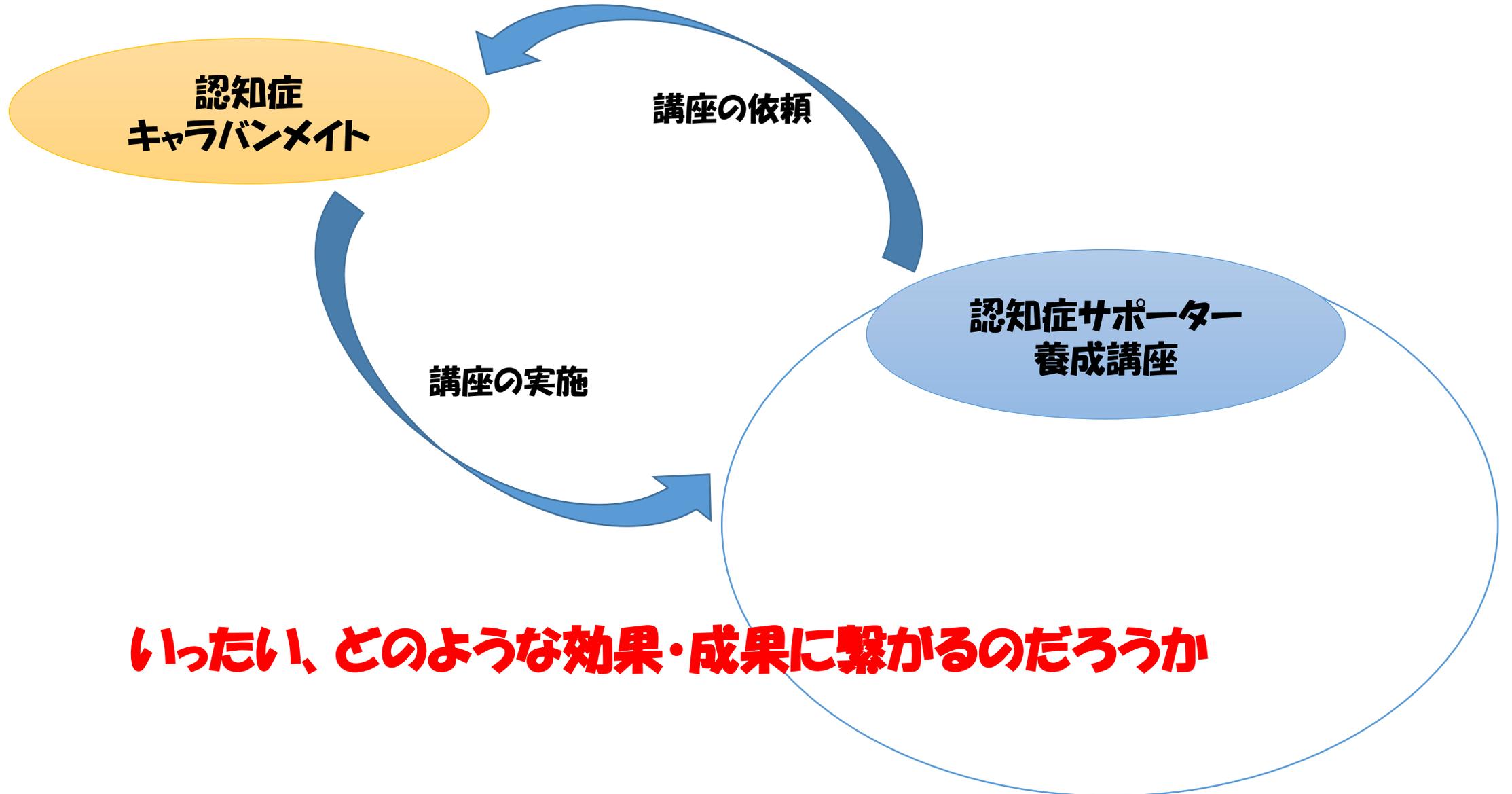
ライフサポートワーカーの協力のもと、「認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくり」に取り組んでいます。

霧島市認知症キャラバンメイト事務局として

霧島市も平成20年から認知症サポーター養成講座に取り組んできた。

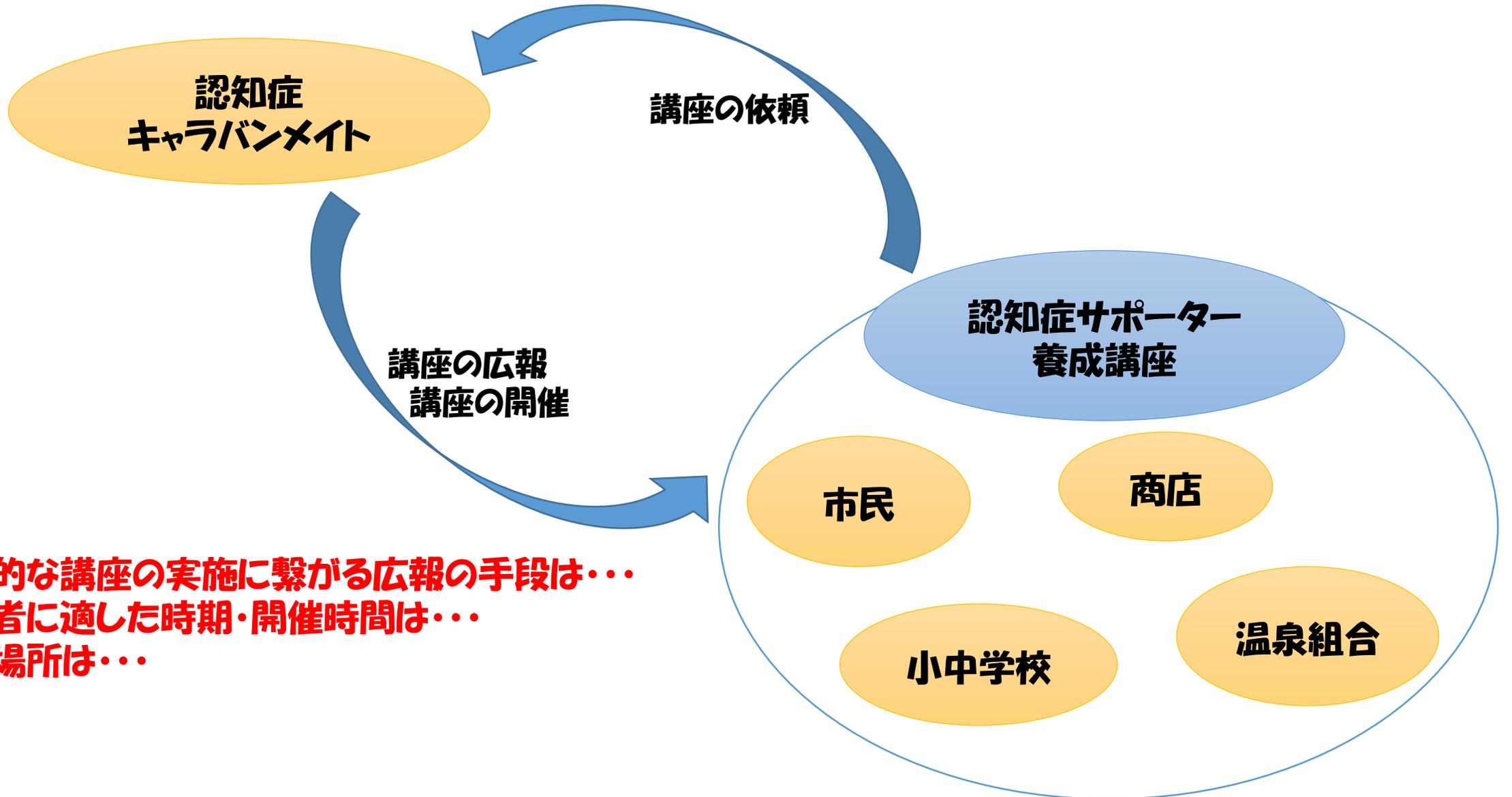
【事務局】	H20年～H23年	市役所
	H24年～	地域包括支援センター
【サポーター数】	H20年～H23年	認知症サポーター数 2,751名 小中学校への実施なし
	H24年～	認知症サポーター数 8,217名 小中高等の学生 2,556名

H20年～H23年は、養成講座の依頼を受けて、実施していた。



いったい、どのような効果・成果に繋がるのだろうか

H24年～「誰に理解・協力を頂きたいのか。」を考え、実施したい。



効果的な講座の実施に繋がる広報の手段は・・・
対象者に適した時期・開催時間は・・・
開催場所は・・・

キャラバンメイト連絡会を実施

霧島市内のメイトに声をかけ、連絡会を開催。

圏域ごとにグループを分け、ワークを実施。

「キャラバンメイト資格を取得したけど、講座を一人で開催するのは不安」

「講師はできるけど、企画をするのは…」

1グループ、1企画。みんなで出来ることを考える

経験者とペアになり、フォローを図ることで、非活動メイトが活動的に

小中学校の理解を得るには？

- ・教育委員会との話し合い
- ・校長・教頭会での広報
- ・PTAの立場で企画
- ・学校の近くに暮らす認知症の方への見守り依頼に重ねて依頼

市民の理解を得るには？

- ・参加しやすい場所、参加しやすい時間帯を考えて
- ・広報は市報だけ
民生委員が広報。
- ・メイトが暮らす自治会で企画

商店の理解を得るには？

- ・商工会議所・商工会との話し合い
- ・市民向け講座を通して、商店で働く人に呼びかけ
- ・超高齢社会のご時世、高齢者に優しいお店のメリットを伝える。

温泉組合の理解を得るには？

- ・温泉組合との話し合い
- ・特に、地域密着型の温泉は、必死に理解をしてくれる。
- ・ソフト面もバリアフリーな温泉を目指して

地域に住み続けることが出来る体制づくり

平成26年5月25日、霧島市民会館にて「ペコロスの母に会いに行く」映画上映会を実施。1000名の地域住民が参加、アンケート回答者500名余、内200名余の方が、住所や連絡先を記入し、認知症高齢者見守り等への協力を表明。

フォローアップとバックアップ体制の検討

霧島市地域密着型サービス事業者連合会、霧島市介護支援専門員会(あしたぼ会)、霧島市通所介護連絡協議会(やったる会)、その他4名の計61名参加。

地域住民から寄せられた実際の言葉「あんたたち(事業所)は、お年寄りを勝手に連れていく」をテーマに、高齢者を支えようとする地域と事業所の在り方を検討。

あなた達は、お年寄りを勝手に連れて行く。

どんな思いが込められた言葉

なぜ勝手に連れていってしまったのだろう

地域の方と協力することの必要性は

私たちは、今

あなた達へ	3グループ(国分0)	4グループ(国分南)	5グループ(渡島・牧園)
<ul style="list-style-type: none"> 挨拶も無い 行事に出るはいい時にいい どこに行ったのかわからない、知りた 自分も年をとったら連れて行かれる 事業所だけの考えで物事を進め 押し付けがましい 声をかけてくれたら 地域住人とは関係ないのか 最近来たばかりなのに 	<ul style="list-style-type: none"> 「知られたくないんじ 込み 家族じゃないから... (地域)の関係性を知ら 家族の意向だからと無理 地域との連携は考えていい 利用者の視点に立っていい 専門性だけで考えている(多方向から見 いれない) 連れて行っているという意識すらない 	<ul style="list-style-type: none"> 「さびしい 心配 	<ul style="list-style-type: none"> 「相手
<ul style="list-style-type: none"> 「思った イ の軽減といつまでも 思い 元気がないからと 地域の人 よくことを説明したり する必要に気が った 個人情報 	<ul style="list-style-type: none"> 「繋がった方がいい ・その人自身を理解するために必要 ・その人が大切にしていたものを同じよ うに 大切にしたい ・地域の人々の安心感になる ・地域の人に信用してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> 「繋がっていいと自分ではなくなる ・助けてもらいたくない、必ず起こる ・家で生活の時間が長い(私達の間わり より) ・面倒くさいけど、関わらないとっと面倒く さい ・怒られたくない 	<ul style="list-style-type: none"> 「事業所は24時間のサポートはできない ・事業所も地域の一部、助けてもらうことが ある ・困った時に助けてもらえる ・利用者も地域と繋がっているの ・地域 ・自然と繋 ・利用
<ul style="list-style-type: none"> 自分達だけでは支えられない ・地域で生活していくため ・その人のことを知っている いざというとき何かと便利 	<ul style="list-style-type: none"> 「繋がらなくていい ・本人が希望した場合 ・地域性によるが、協力的な 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域にどこまで、自分達の施設を知って 頂く為 ・困った時に助けてもらえる ・利用者も地域と繋がっているの ・自然と繋 ・利用 	<ul style="list-style-type: none"> 「事業所は24時間のサポートはできない ・事業所も地域の一部、助けてもらうことが ある ・困った時に助けてもらえる ・利用者も地域と繋がっているの ・地域 ・自然と繋 ・利用



<ul style="list-style-type: none"> 「ここに行ったの 心強い 心配 「さびしい 「どこか 「連れて行かれるの 「まだだったのに 「人は納得しているのだ 	<ul style="list-style-type: none"> 「・その人(地域)との関係性を知らなかった ・本人、家族の希望だから ・一人暮らしが心配だから ・そんなつもりはなかった ・どこまで伝えてい 	<ul style="list-style-type: none"> 「・ご近所の方に伝えなければという意識が 「・秘密 「・の方に話すとか恥ずかしいのではない 「・とって一番良い 「・習慣があまりない 	<ul style="list-style-type: none"> 「・CMから依頼があったから ・事業所と本人・家族が了解したら支障ない ・地域の人に話すの必要性を感じない ・本人と地域の繋がりを知らなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 「・特別な理由が無い限り言わない(個人情報) ・家族の要請の上での対応である ・一人で家においていけない(様々な問題がある) ・勝手にではない(本人、家族の希望の上) ・ケアマネ(事業所)に頼まれて ・どこまで言えるのか
<ul style="list-style-type: none"> 「繋がりが 「心強い 「地域の 	<ul style="list-style-type: none"> 「繋がりが 「心強い 「地域の 	<ul style="list-style-type: none"> 「繋がりが 「心強い 「地域の 	<ul style="list-style-type: none"> 「繋がりが 「心強い 「地域の 	<ul style="list-style-type: none"> 「繋がりが 「心強い 「地域の
<ul style="list-style-type: none"> 「私達は今、つながっているのでしょうか？」 	<ul style="list-style-type: none"> 「高齢の男性がGHから「帰りたい」と訴える...」 「帰ってあげたい思いになってきました」 「私達は今、本人・家族に寄り添って考えて行動できるでしょうか？」 「そのための地域のチームワーク作りをしよう」 	<ul style="list-style-type: none"> 「今、地域と繋がっているのでは 「今、何が足りないのでしょうか？」 「①地域での繋がりが足りない 「②交流の場(利用者、地域の方) 「③細かく、小学校～老人クラブ等まで 「④全職員が可任意識をもっているのか？」 	<ul style="list-style-type: none"> 「今、地域と繋がっているのでしょうか？」 「・目標ではあるが、到達できていない 「・個人の問題では済まない。看板を背負っている 「・事業所単位は繋がりがやすいが、個人単位は難しい。地域の行事に参加したり飲ん坊に参加し、色んな場へ足を運ぼう」 	

フォロー・バックアップを受け、 安心して活躍して頂く場を考える

個別ケース、圏域別包括ケア会議、運営推進会議、地域のひろば事業等、**地域とともに地域での住まい方・暮らし方**を考える場はたくさんある。

これらが有機的に活用されれば、ネットワークの構築が推進される。

認知症サポートリーダーと考える 地域づくりと高齢者支援

暮らす地域を考える

日常生活圏域ごとにグループワークを通して、私たちが暮らす地域を考える。

地域づくりの検討会は、困りごと等のマイナス面を検討しかちですが、今回の検討会は「**お住まいの地域自慢**」と銘打って実施。

プラスを軸にすることで、話は弾み今後の協働に向けた繋がりができた。



マップづくり

マップづくりは、地域住民の**自助・互助**を見える化できるだけでなく、**住民の力を肯定することができ、共助(住民による福祉活動)の取組を形成することができる。**



課題

出来る限り多くのサポーターが活躍できる環境を作らねば。
のべ10,000名のサポーターのフォローアップ体制を再検討。
新しい総合事業を見据えたサポーターの役割を検討。

地域によって差があるのは、何故なのか？
認知症地域支援推進員は、本当に地域の課題を抽出できているか。
協同のための信頼を得るには。

今後の活動・取組の方向性

出来る限り多くのサポーターが活躍できる環境を作らねば。

サポーターの所在、連絡体制の構築に向け、ボランティアセンターと連携を図る。生活支援体制整備事業とのリンク。

地域によって差があるのは、何故なのか？

地域によって差があるのではなく、地域住民と自身との繋がりに差があることを理解し、繋がいを意識しながら協働することを目指す。

生活支援体制整備事業が開始、地域課題の抽出に当たっている。抽出された課題に対し、認知症施策の展開を考える。

認知症高齢者の見守りネットワーク

**GPS・探知機等、高齢者の見守りシステムは色々あるけれど・・・。
道に迷っても、早く見つかい安心して頂くために・・・。**

早期発見のためのネットワーク

**地域住民と捜索模擬訓練、声掛けレッスン。
警察や地域住民との事前情報共有。**

「人命探知機ヒトココ」を活用した、捜索ネットワーク構築を目指して

事前と事後の両方をサポートする「ヒトココ」をご提案

事前 事故を未然に防ぐ！

子機を装着した利用者が、施設から一定距離（例えば60m）離れたその時点で親機がお知らせ！

大事に至るまえに
利用者の安全を確保！

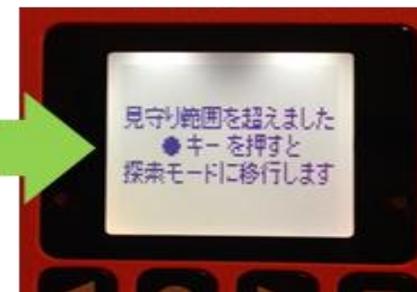


親機見守りモード（イメージ）

見守り中



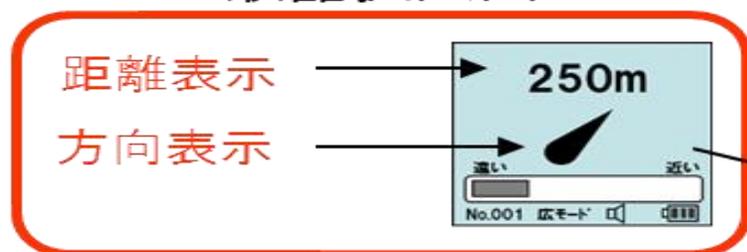
お知らせ！



事後 行方不明者を探す！

行方不明者がいる所へ「距離と方向」で誘導

液晶拡大図



電波



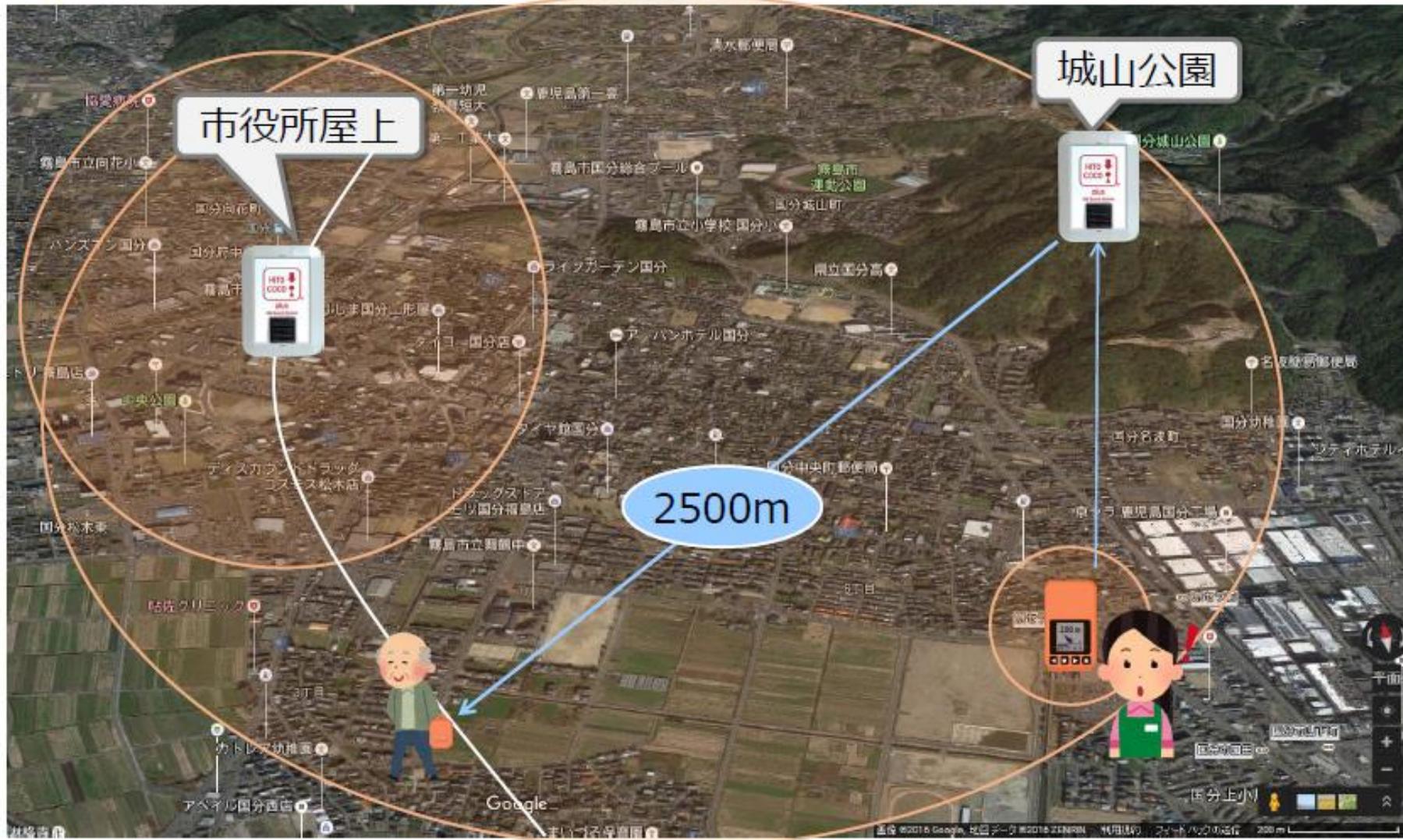
子機

行方不明者

倫理・ネットワーク・連携が揃った見守り

- ・ **倫理**: 必要な状態像。必要時以外、ID検索を行わないという約束。
見守り機能の適正利用を考える。施設で使用するものの是非。
- ・ **ネットワーク**: 機器の導入だけでは、十分な機能を発揮しない。
見守り体制を都度構築することが必須。
- ・ **連携**: 介護サービス事業者相互の連携が必須。
地域包括ケアの一助として、各々役割を理解する。

中継器で広域探索 + 位置推定 → ヒトココで絞り込み





ヒトコのご紹介
2016年10月14日
A&I 開発
A&I 株式会社



薬剤師との連携の始まり

連携サポートシートについて～実践と効果～

薬事日報 2015年5月8日

地域包括ケアで薬剤師の位置確立を

薬剤師の専門性を持って、アシスト・マネジメントするための キーポイント

- ・ 急激な機能低下の縮小と、穏やかな機能低下のさらなる緩和
- ・ シームレスなケアの実現
- ・ 日常の健康管理と重症化予防
- ・ 介護と医療のチーム化
- ・ 健康管理のための客観的データの収集
- ・ 地域ケアマネジメント会議・カンファレンスの開催

地域の薬局・薬剤師には、**ファーストアクセス**の健康支援業務・**チームアクセス**の在宅医療、医療間多職種連携の**コーディネーター**的役割

連携サポートシートの目的

薬局に来られる患者さんとの会話から、多くの情報・相談・**気づき**を得られる。

気づき：認知症の状態にあるが、治療薬の処方がない。医療・介護の状態が分からない。

整容・清潔が保てていない。在宅生活が心配。

相談の内容に被害的なことが含まれている。虐待？消費者被害？認知症の症状？

介護サービスは受けているようだ…。介護支援専門員に伝えたいことがあるが、担当者が分からない。

これらの気づきを、そのままにはしておけない。

ファーストアクセスでキャッチした情報を必要性に応じて連携し、医療・介護・福祉の専門性を持ったチームケアの実践を…。

連携サポートシート

システムを活用した、ネットワークの構築

患者氏名	受付日	訪問日
介護保険 有 ・ 無	担当CM	要支援1 要支援2
かかりつけ医療機関	持病および既往歴	要介護1 要介護2
		要介護3 要介護4
認知症治療の有無 有 ・ 無	入所型施設の利用 有 ・ 無	介護保険サービスの内容
家族構成	施設名	
訪問時の状況		
今後の対応		

患者氏名
相談受付日 **包括訪問日**
介護保険認定の有無と認定状況
担当CMと介護保険サービスの利用状況
かかりつけ医療機関 **持病及び既往歴**
認知症治療の有無
入所型施設の利用の有無
家族構成
訪問時の状況
今後の対応

薬局からの情報記入欄		
患者氏名	生年月日と年齢	情報提供薬局名
住所		担当薬剤師名
内容		
医療機関情報開示の可否	Yes	No
包括職員の訪問についての伝達	Yes	No

患者氏名 **生年月日と年齢** **住所**
情報提供の薬局名・薬剤師名
内容
医療機関情報開示の可否
包括職員の訪問についての伝達

この連携サポートシートは地域包括支援センターとの連携のための情報共有シートです。
 対象は認知症が疑われるが未治療の患者様、その他気になる患者様(虐待や自殺企図が疑われる)などです。
 対象となる患者様がいらっしゃった場合、薬局記入欄に情報を記入し
 FAXもしくはメールにて担当地区の包括支援センターまでご連絡をお願いします。

始良市地域包括支援センター: FAX64-5538 mail:hokatsu@city.aira.lg.jp
 霧島市地域包括支援センター: FAX0995-46-8123 mail:kirishimashi-houkatu@piano.ocn.ne.jp
 湧水町地域包括支援センター: FAX0995-74-3111 mail:fukushi@town.yusui.kagoshima.jp

効果

- **本人・家族が、より早期に相談機関の情報を知ることができる。**
- **認知症等により、生活が困難な状況の早期発見・対応に繋がる。**
- **高齢者虐待の防止および早期発見・対応に繋がる。**
- **担当の介護支援専門員をはじめとする介護の専門職との連携が図れ、互いの専門性を発揮した支援体制の構築が図れる。**

薬剤師へお願いしたこと

介護が必要となった高齢者の薬は、家族が取りに行くことが多い。一方、元気な高齢者は自分で取りに行くことが多い。

介護状態に移行しそうな高齢者や、認知症が疑われる高齢者との接点が一番多いのは、薬剤師であると言える。

薬を取りに来られた高齢者・家族からの相談や、薬剤師の専門的見地で得た情報は、**介護予防の観点**からも重要。

薬事日報にある**ファーストアクセス**の意味・意義がここにある。

更に、H29年度から開始となる**総合事業**や**認知症初期集中支援事業**では、薬剤師の専門性で見立てた情報がますます重要になる。

以上、ネットワーク構築を中心として報告させて頂きました。

地域包括ケアが、各事業縦割りに、各専門職が個別に進んではいませんか。

ネットワーク構築を中心に見据えると、各種事業や各専門職の枠に捉われず色々な活動が伸びやかに行えます。

また、当初考えられていた事業内容は、実践してみると大きく変わることがあります。それは、中間で評価をしながら実施されるからこそ。

当初考えられていた事業内容以上の成果を求めることに異論を唱える人はいませんよね。

皆様へメッセージ

大変だなと思った時こそ、周りを見渡してください。あなたは孤独じゃありません。一緒に考える仲間を増やしましょう。

一つの事業から一つの成果を得るのではなく、多くの実いを得れることに気づいてください。

その実いが繋がる形を思い描くと楽しく活動できますよ。

ご清聴ありがとうございました